

# 成田支部総決起集會に15名が結集

千葉県警・佐倉署、船橋西署は、4月9日と16日、「本部」派組合員「小川建二」に対する2年も前の説得オルグ行動をとらえて、それぞれ「監禁強要」不法監禁被疑事件となる「デッチあげ」をもって、大須賀君、錦織君、川嶋君(成田支部)、宮内君(佐倉支部)、吉野君(勝浦支部)、滝口君(幕張支部)への任意出頭攻撃をかけた。これは「3.13ゲリラ事件」を口実とした、3.27不当捜索と同質の攻撃であり、動労本部「革マル」反動分子と権力の一体となった、「6.12デッチあげ弾圧」を上回る新たな動労千葉組織破壊攻撃であります。

支部組合員の3名に出頭攻撃がかけられた成田支部は、4月19日、「デッチあげ監禁強要」刑事弾圧粉砕、成田支部総決起集會しを開催し、支部一丸となった大反撃の闘いに決起しました。

## 血と汗と決りかちだった租税を守りぬく」日暮支部長ありさう」

集會は、高木副支部長の司会で始まり、日暮支部長は、「4月19日より常駐体制を確立し、3年前、血と汗と涙でかちとった成田支部の組織を守りぬく。権力・当局、動労本部」の三者一体の攻撃に敗けるわけにはいかない。団結を強化し、3人の仲間を守りぬかなければならぬ」と決意を表明しました。

## 本部を代表して中野書記長は、まず82春闘の経過と動労千葉の方針の正しさについて述べるとともに、動労本部「革マル」が当局の攻撃に完全屈服し、職場慣行既得権を率先して破棄している事実を明らかにしました。

更に、今回の任意出頭攻撃について、「革マル分子」小川建二が、監禁された」と「デッチあげ」6月23日の津田沼寮での経過、7月5日の佐倉村園区乗務員詰所での経過について説明し、この攻撃の狙いが、国鉄労働運動解体攻撃の強まりと合わせた、動労千葉解体にあり、動労本部「革マル」が新たな労働運動弾圧のパターンをつくっていることを暴露し、弾劾しました。

そして、「本部」派に対する総オルグを展開することによって解体し、どんなことがあっても成田支部の3人の仲間をはじめ、佐倉、勝浦、幕張をも含めた6人の仲間全員を守りぬこう。成田支部が最先頭に立ち、その範を示す闘いをやりぬいてほしい」と訴え、全員の拍手で熱烈に確認されました。

## 「革マル」への憎しみ、完全黙秘こそ勝利のカギ」重見本部特別執事が激励」

続いて、昨年、同じく動労本部「革マル」の「6.12事件」でデッチあげにより、告訴・不当逮捕され、完全黙秘、非転向で獄中闘争を貫徹し、不起訴奪還もかな

とった重見本部特別執行委員(当時、津田沼支部書記長)が、「私が17日間の獄中闘争を勝利できたのは、あんな卑劣な革マル分子なんかには負けてなるものか、と一日たりとも革マルへの憎しみをやわすれなかったからであり、また、支部総体の連日の激励・支援行動、家族への支えがしっかりと外の仲間によって、守られたことによる。勝利のカギは完全黙秘で闘うの一点につきま。3名の仲間も成田支部も徹底的に「ガバ」ってほしい」と自らの体験の教訓をまじえて、激励のあいさつをしました。

## 「動労千葉の鬼となって頑張る」錦織・川嶋・大須賀3君、固い決意を表明

最後に、出頭命令攻撃を受けている3名の仲間が立ち、断固たる決意を表明しました。

錦織君は「こんな卑劣な革マルを許せない。出頭を拒否し、完全黙秘で貫く。全組合員の御協力と御指導をお願いします。」と決意を述べました。

川嶋君は「成田支部の誇りをたもって、強い、固い決意で23日完全黙秘、動労千葉の鬼となって頑張る」と強い決意を表明しました。

大須賀君は、「出頭を拒否し、完全黙秘で頑張る。動労千葉つしばかりでなく、日本労働運動つしである。動労本部「革マル」のタレコミ、働け運動路線を粉砕するまで闘いぬく」と固い決意を述べました。

成田支部は、4月19日より完全常駐体制を確立し、支部組合員一丸となり、不当弾圧を粉砕することを確認し、最後に、日暮支部長の団結「ハロー」をもって、総決起集會を終了しました。

これより先、動労千葉本部は、4月19日執行委員会を開催し、直ちに全支部の臨戦体制、総決起につくよう指示を出し、4月22日、不当弾圧粉砕、重見本部特別執事への総決起を指示した。全支部の組合員の皆さん、総決起しよう！

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！

# 「本部」革マル=小川建二のデッチあげ・タレコミで6名の仲間(成田・佐倉・勝浦・幕張)に出頭命令攻撃！

## 4/19 成田支部が反撃の闘いに総決起！